

校内研究会

5月15日

第一部

模擬授業 授業者：福田純子校長

第3学年を想定した模擬授業

- T どんな時友達がいてよかったですか。
C 学校と一緒にいってよかったです。
C いつも遊べるから。
C 風邪をひいてる時に声をかけてもらったり、助けてもらったりできる。
・悩みや内緒話をする
・注意をしたり許したりしてくれる。

資料「ないた赤鬼」実物投影機で挿絵を映しながら・・・

- T みんなは赤鬼の気持ちになって聞いてくださいね。
～実物投影機で挿絵を映しながら読み進める～
T 赤鬼が青鬼をぼかぼかなぐった時どんな気持ちだったでしょう。
(板書：青鬼をぼかぼかなぐった時)
C なるべく痛くないようになぐった。
C ごめんねと思いながら。
C 僕のことを慕ってくれるかな。
C いいのかなと思った。
T じゃあ、どうしてぶつのを止めないのかな。
C 青鬼がぼかぼか殴れと言うから。
C それ位殴らないと信用してもらえないから。

板書

- A これで人間と友達になれる
B 青鬼君に申し訳ない
C だましているのがばれたらどうしよう
D その他

- T 赤鬼は思いがかなった時どう思ったのかな。
C やったー、と思った。
C うれしいけど、うーんとそれでいいのかなと考えた。

T ここでみんなに考えてもらいたいことがあります。

板書

手紙を読んで泣いている時

- T 赤鬼はどんなことを考えていたのでしょうか。
C 村人とは仲良くなれたのに青鬼（大切な友達）を失くした。
C 大切な友達を失くして悲しくて、苦しくて泣いている。
C 自分を犠牲にしてまでも、僕のことをこんなにも思ってくれた。
C 友達のために。
T 友達のために何かしてあげたことはありますか。
C お菓子を買う時に友達の好きなものを買う。
C 友達が忙しくしている時、友達のために何かやってあげる。
C 消しゴムを拾ってあげた。

T 「友」という字の成り立ち→信頼して助けあっていくのが友達

★資料を使い何をねらうかが大事、価値に迫る内容把握を・・・参考資料2種類



ねらいに迫るキーワード

第二部 講演：荻原武雄先生

模擬授業にはいろいろなことが含まれていた。

演題「学校における道徳教育」

1. 道徳授業の前に（基本のおさえ）

(1) 全教育活動における道徳教育が基盤であることをおさえる

- ・道徳授業のやり方ばかり覚えてもよくない。
- ・朝あいさつしてから帰りの会までたくさんの道徳の授業がある。
- ・子供は様々な場面で心を見せるがそれをどう受け止めるかが問題。
- ・まなざしを増やし、言葉をかけてやる、子供の内面の表出を受け止めてやることが大事。

(2) 常に子供理解の深化に努める

- ・1, 2年生の子供が「先生なんか大きらい～」と泣いていることがある。泣いている子をよく見ると「先生こっち向いて」と思って泣いている。本当は先生のこと大好きなんですね。
- ・子供の心をつかむチャンスはいっぱいある。
- ・人権教育・道徳・生活指導は一つになって機能する。
- ・子供の心を育てるのはチーム：校長先生、副校長先生、養護教諭、専科の先生、担任みんな育てるという意識が大事。
- ・教える・育てる＝教育。その典型が道徳。

2. 道徳の授業について

(1) 「道徳の時間」とは

- ・ねらいに照らして、子供一人一人が自分の生き方の中の課題について、深く感じたり考えたりする時間と定義してあるが、子供30人いたら30通りの答えがあるといってもいい。
- ・考えるレベルは違うが、子供と一緒に考える。
- ・実践は、朝の会、総合学習、特別活動、学級活動などで。

(2) よい授業と上手な授業

- ・上手にやろうと思ってやって、うまくいったことはない。

・よい授業の要件

①資料の選択と活用の工夫

- 三要素…合目性（ねらいにあっているか）
- 一般性（子供に分かりやすいか）
- 誘意性（子供の興味関心にあうか）

②「話し合い」の充実

- 授業の充実＝発言活発
- 聴きあい的大事

③教師の姿勢の吟味

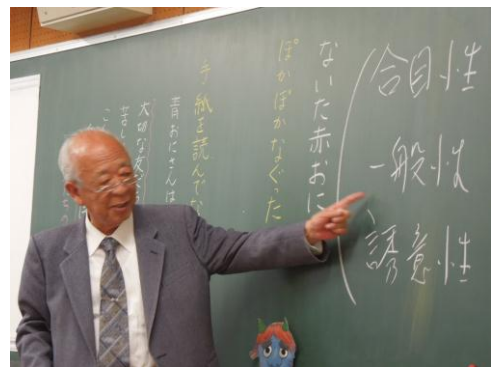
- 三要素…待つ・聴く・受け止める
- 沈黙は最大の宝。子供の持ち時間を多くとろう。

(3) 道徳の授業の充実に向けて

- ・テクニックの問題。小道具は結構重要。
- ・書く活動は大事だが、書かせすぎは逆効果。書かせる内容は主人公の気持ちを書かせることが多い。振り返りは自分の秘密を書かせることが多い。
- ・ワークシートは宝物。その子の歴史、発達の証明になる。

道徳は

結構楽しいよ。好きにやっていいよ。



振り返りカードより

「泣いた赤鬼」は、どの学年でもそれぞれの発達段階に合わせたアプローチができるという点で、道徳授業のやり方を知るために分かりやすかったです。

道徳の授業の基礎基本が学べました。補助発問のような問いやゆさぶりのかけ方が参考になりました。

一人一人の発言をひろって、認めてあげるとは道徳の授業だけでなく、その他の授業や休み時間において、頭の中にもっていなければならないことだと改めて感じました。

「待つ・聴く・受け止める」子供たちに対する姿勢として心がけていきたいと思えます。